

# 安全の手引き

～ ブルンジで安全に生活するために ～



在ルワンダ日本国大使館  
(ブルンジ兼轄)

2025年2月改訂

## 目 次

|     |                        |    |
|-----|------------------------|----|
| I   | はじめに .....             | 3  |
| II  | 防犯の手引き .....           | 3  |
| 1   | 基本的な心構え .....          | 3  |
| 2   | 最近の犯罪発生状況 .....        | 5  |
| 3   | 防犯のための具体的留意事項 .....    | 6  |
| 4   | 交通事情と事故対策 .....        | 10 |
| 5   | テロ対策について .....         | 10 |
| III | 緊急事態対処 .....           | 11 |
| 1   | 平素の準備と心構え .....        | 11 |
| 2   | 緊急時の行動 .....           | 12 |
| 3   | 緊急事態に備えてのチェックリスト ..... | 14 |
| 4   | 緊急連絡先 .....            | 15 |
| IV  | おわりに .....             | 15 |

## I はじめに

ブルンジでは、長い内戦の影響もあって現在でも銃器等の武器が広く出回っており、武装組織による強奪や銃器や手榴弾を使用した粗暴な凶悪犯罪が頻発しています。

2020年の現大統領の選出以降、政治情勢は一見落ち着いているように見えますが、各地の政治的な緊張がなくなった訳ではありません。また、コンゴ（民）国境付近にはブルンジの反政府武装勢力が多数存在し、コンゴ（民）政府の反政府武装勢力（M23）の活動範囲が南下すれば、ブルンジ国内の治安情勢にも影響を与える可能性があります。大規模集会や抗議活動、デモが行われている場所には絶対に近づかないようにしてください。なお、2025年は議会・地方選挙等を控えており、国内の情勢が急激に不安定になる可能性も排除されません。

ブルンジでは、犯罪発生率は日本よりも高く、特に窃盗や強盗などの一般犯罪には十分に注意する必要があります。

このような事情から、在留邦人及びこれからブルンジへ渡航される皆さまにおかれましては、本手引きをお読みいただき、常に防犯意識を高く保ちながら自身の生命・身体・財産を守り、各種事件や事故に巻き込まれないように警戒してください。

## II 防犯の手引き

### 1 基本的な心構え

海外へ赴く際には、その国の法制度、文化的背景、風俗習慣などの違いに留意して、日本国内と同じレベルの対応が得られることは少ないことを日々認識してください。『自分の身は自分で守る』という基本を忘れることなく、不要なトラブルを回避するよう自身で出来る最大限の安全対策を漏れなく行うことが必要です。

ブルンジ国内にいる全ての人の皆様の安全確保は、基本的にブルンジ政府がその責任を負っており、ブルンジ政府の行政管理の下で生活・滞在していることを念頭に置いておいてください。特に事件や事故等に巻き込まれた場合には、各人が治安当局に詳細を一報することによって、事件処理や捜査が開始されます。日本大使館はこれらの事故処理や捜査等に直接介入することはできませんが、邦人保護の観点から、病院等の紹介や日本の御家族との連絡、逮捕された場合の領事面会などできる限りの側面支援を行います。

#### (1) 行動三原則の徹底

一般的に日本人は、危険に対する意識が低いといわれます。また、海外から見た日本のイメージは、経済大国で金持ちが多く暮らしているといったものが一般的です。特にアフリカ社会の中では、日本人をはじめアジア人の容姿は非常に目立つため、緊張感・警戒感を持つようにしてください。下記に示す「海外における安全のための『行動三原則』」を正しく理解して、『自分の身は自分で守

る』基本を常に心掛けてください。

～ 海外における安全のための『行動三原則』 ～  
“目立たない” “行動を予知されない” “用心を怠らない”

## (2) 常に『備えの心』を忘れずに

防犯対策にここまでやれば良いといったゴールはありません。世界最貧国の一つと言われるブルンジで安全・安心に過ごすためには、多くの『備え』が必要不可欠です。最新の治安情報の収集・分析を行い、常に治安情勢へ関心を持つようにしてください。

## (3) 治安情報の入手

適切に防犯対策を講じるためには、はじめにブルンジの社会・治安の実態と問題点を知り、日本と大きく異なる現状を知ることが必須です。旅行や赴任の前には、外務省海外旅行登録「たびレジ」

(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>) に必ず登録するとともに、外務省海外安全情報などから可能な限りブルンジの基礎的な情報を事前に収集してください。また、到着後はブルンジの新聞やテレビ、インターネット（現地政府機関のホームページ、SNS）などを用いて積極的・能動的に現地の治安関係情報を入手することが大切です。常に情報のアンテナを張っておいてください。

## (4) 日本人がどのような存在かを理解する

日本人が犯罪者の目にどのように映っているかを理解することが重要です。ブルンジでは外国人が少なく、その中でも特にアジア系はとても珍しいため、日本人はかなり目立ちます。ブルンジでは外国人は皆お金持ちであるとの認識であり、我々日本人は犯罪行為の対象になり得ることに留意してください。

## (5) 防犯対策に労力・コストを惜しまない

特に外国において、安全性の高い家は家賃も高く、その選定に時間と労力を要します。また、警備員の雇用や警備機器の設置などにはコストもかかります。しかし、目先の出費を惜しんだばかりにその後大きな代償を払うことになってしまったら海外生活どころではありません。海外生活では防犯対策が最優先と言っても過言ではなく、ご自身やご家族の安全に対する労力や出費を惜しまないことを強くお勧めします。安全かつ安心な居住基盤があってこそその海外生活です。「自分と家族の安全は自分たち自身で守る」という心構えを今一度認識しておくことが必要です。

## (6) 身体の安全を最優先に

実際に危険な状況に直面した際、しかも相手が武装している可能性が予見されるような時などに、要求を拒否したり抵抗することは極めて危険な対応であり、自身の生命や身体に危害が及ぶ最悪の展開すら予想されます。冷静になり、自身の生命と身体の安全を最優先に行動してください。

また、事件や事故で負傷した場合、日本と同様の医療を受けられない可能性が非常に高く、場合によっては治療のために国外移動が必要になることもありますので、必要不可欠なコストとして十分な補償内容の海外旅行保険への加入を強くお勧めします。

## (7) 行政機関の対応能力の違い

日本では、110番や119番に電話をすればわずか数分でパトカーや救急車・消防車が駆けつけるところ、ブルンジでは日本と同様の対応は期待できません。これは病院などでも同じで、救急車で運び込まれても直ちに処置を施してもらえないとは限らず、日本では十分に治療・救命できるような事態でも、ブルンジでは措置できず一命に関わるような事態に陥りかねません。

## 2 最近の犯罪発生状況

ブルンジでは、公式な犯罪統計の発表はありませんが、日本と比較すると犯罪の発生率は高く、特に武器を使用しての殺人、強盗、強姦などの凶悪犯罪の占める割合が高いと言われています。外国人に対する犯罪率は低いものの、路上強盗、ひったくり、車上ねらい、住居への侵入窃盗などが日々発生しています。

### <2024年中の重大凶悪事件>

2024年中における重大凶悪事件の発生はありませんが、銃器を用いた強盗事件や地元住民同士のトラブルから手りゅう弾を投げ込まれる事件等が頻発しており、巻き込まれることのないよう気をつける必要があります。

また、前年の2023年12月、反政府武装勢力が女性、子供を含む一般市民を狙ったテロ事件が発生し、多くの尊い命が失われました。日々危険と隣り合わせの環境下にいることに留意し、緊張感・警戒感を持つようにしてください。

### <2024年中の邦人被害の発生状況>

なし

### 3 防犯のための具体的留意事項

#### (1) 住居選び警備方法

##### ア 戸建住宅と集合住宅の違い

戸建住宅の場合は、家主とも相談しながら基本的には全てご自身で対策を講じる必要があります。

一方、アパートメントなどの集合住宅の場合は、警備員が配置され、非常用発電機、窓の鉄格子などの設備も整っていることが多く、初期投資やご自身の労力は比較的少ないと予想されます。戸建住宅・集合住宅いずれの場合においても以下の点はとても重要なポイントですので念頭に入れながらご自身の住居を選定してください。

- ① 高級住宅地を選ぶこと。
- ② 街灯があり、夜間でも道路や家の周辺が明るいこと。
- ③ 表通りからそれほど離れていないこと。
- ④ 家の周辺（特に隣家）に空き地や空き家が少ないこと。
- ⑤ 家の近くに多数の人が集まる商店やバス停などが無いこと。

##### イ 防犯対策

ブルンジでは主要幹線道路ですら街灯がほとんどなく、夜間は町中がとても暗いため注意が必要です。防犯対策には照明の設置と警備員の配置が有効です。照明を設置することで周りが暗い中で目立ち犯罪者も押し入りにくく、警備員も警備がしやすくなります。

また、内側から鍵をかけることができ、シャワーやトイレを有している部屋があれば、そこに水や食料等を保管することによって、家屋内における最後の砦とすることも可能です。

これにより、万一、強盗などが侵入してきた場合、そこに逃げ込むことで被害を小さくすることができます。

##### <具体例>

- ・ 外壁は高く頑丈なものとし、レーザーブレードワイヤー、忍び返し、センサーライト、防犯カメラなどの防犯設備を設置する。
- ・ 外壁や庭などに照明をできるだけ多く設置する。
- ・ 門扉にはカメラ付きインターホンや防犯カメラ又は確認用の小窓を設置し、敷地外の様子が見えるようにする。
- ・ 立木、植栽などはこまめに剪定して死角となり得る場所を少なくし、犯罪者が身を隠せないようにする。
- ・ 窓に鉄格子を入れる。自宅敷地の外周に高い塀があったとしても鉄格子を設置した方がより安全です。

- ・ 玄関や裏口は頑丈なものとし、鍵も複数取り付け、ドアチェーンとドア覗き窓も取り付ける。
- ・ 入居の際に家屋内外の全ての鍵を交換し、予備も含め自身で管理する。
- ・ 停電時に備えて発電機、ロウソク、懐中電灯、ランタン等を用意する。
- ・ 警備会社は制服を着用する定評のある会社を利用する。（政府機関、金融機関、各国大使館等で依頼している業者を選ぶ）
- ・ 警備員、使用人などを過信しない。（自身の生活、行動パターンを逆監視され、熟知されている）
- ・ 外出する時は、全ての鍵を確実に施錠する。
- ・ 昼夜を問わず、在宅中は内側からドアロック、ドアチェーンをかけておくほか、内側も鍵穴式の錠には鍵を挿しておく（外側から鍵が挿されても回らないようになる）。
- ・ 庭先などに、脚立やはさみ・バール等の工具類などの侵入用具となり得るものを放置しない。
- ・ 室内も常時整理整頓に心がけ、もし物がなくなった場合も異変にすぐ気付けるようにしておく。
- ・ 万が一の時は人命を最優先する。抵抗や犯人の深追いをしない。スマートフォンのカメラで犯人の顔や行動を撮影することは相手を刺激させ、更に深刻な被害に至りかねず大変危険な行為。
- ・ 最寄りの警察署、病院などの場所を確認しておく。

## （２）外出時の注意点

ブルンジで外国人を見かけることは少なく、特に日本人はとても目立ちます。自分が想像している以上に周囲からはその行動を注視されていますので、常に周囲を警戒して犯罪の標的にされないように以下の点に注意してください。また、夜間の徒歩での外出は極力控え、車両の利用し必要最小限の用件に済ませるよう心がけてください。

### ア 服装

携帯電話、財布などの所持品分かりにくい服装を選ぶ。

これらをズボンの後ろポケットに入れたまま歩くのは大変危険です

### イ 携行品

- ・ 身分証明書（旅券のコピー）を常時携行する。
- ・ 必要以上の荷物は持たず、所持品は分散して携行する。
- ・ バックやカバン類を持つ場合は、できるだけ手提げ式のは避けましょう。また、リュックサック使用時も油断することなく、人の多いところでは体の前に抱えて自分の目の見える位置で持つようにしてください。

### ウ 徒歩移動時の注意点

- ・ 夜間は極力外出しない、単独の徒歩外出は厳に控える（犯罪の被害のおそれが格段に高まります。）。
- ・ 市場周辺や狭い路地や建物の入り組んだ場所などは日中でも避ける。
- ・ 道路を横断等する場合には、横断歩道を使用し、周囲の安全を自分の目で確実に確かめる。

#### エ 車両移動時

- ・ 運転手を雇う時は信頼できる者を雇うこと。
- ・ 車両乗車時は内側から必ず施錠し、窓は広く開けすぎず、他の人が外側から手を入れられないように注意する。可能であれば、後列中央等の窓から離れた席に座る。
- ・ 車両から離れる際には、窓を確実に閉めて施錠をし、車外から見える場所に物品を絶対に放置しない。
- ・ 車両を駐車する場合には、できるだけ管理人や警備員が配置されている駐車場を利用する。
- ・ 車両乗降時には十分周囲の安全を確認し、ひったくり、物乞い等、不審者の有無に警戒する。
- ・ 交通事故、犯罪被害に備えて十分な補償内容の保険に加入しておく。

#### オ その他

- ・ 貴重品や財布の中身を他人から見られないように注意してください。  
特に商店やバスなどで支払いをする際、財布を開けて支払うことは周囲の注目を集め、犯行のターゲットにされる危険性が高まります。
- ・ 物売り、物乞い、知らない人が近寄ってきた際には十分警戒してください。
- ・ 夜間の外出は極力控えてください。
- ・ タクシーを利用する場合は、できれば顔見知りの運転手のタクシーをお使いください。運転手に指示する前に信頼のおける人に詳しく場所を聞くなどして事前に目的地を調べておくようにしてください。決して、運転手任せにしないことが肝要です。特に夜間は、町中がとても暗いため目印も分かりづらく、慣れないうちは自分の現在位置が分からなくなりますので、十分注意してください。

### （３）各種犯罪等への対策

ブルンジで発生する一般犯罪に巻き込まれないよう、以下のような対策をとることを強くお勧めします。

#### ア 置き引き

レストランやホテルなどで、荷物から目を離した隙に携帯電話・バッグなどが盗まれる被害が多発しています。レストラン・商店等では、自分の荷物から目を



離さないようにしてください。たとえ短時間であってもテーブルなどに放置することは危険ですので、面倒でも貴重品を必ず携行してください。

#### イ すり

バスに乗車中やバス停、市場でのすりが発生しています。人混みでは、携帯電話や財布などはバッグ等に入れて、しっかり閉じて自分の前で抱えるなど、荷物から目を離さないようにしてください。また、バス停などで話し掛けられた時や買物中は、荷物への注意が散漫となるため特に注意してください。犯人が1人だけとは限りません。複数人が共謀し、1人が話しかけるなどして気を引いている隙に他の仲間が周囲からバッグ等をひったくようなケースも十分に考えられます。

バスの車内では荷物を身体の前で抱えて盗難を防止するとともに、居眠りは避けて下さい。

#### ウ ひったくり

路上でのひったくりや、突然茂みから犯人が近づいてきて荷物を奪い取るひったくりが発生しています。町中には街灯が少なく全体的にとっても暗いため、夜間の外出は大変危険ですので控えてください。また、昼間に歩くときでも荷物をしっかりと持って下さい。また、路上で携帯電話を使用したり（歩きスマホ）、イヤホンで音楽を聴きながら歩くことも大変危険ですので控えて下さい。また、付近で不審な動きをしている人がいた場合は、相手を警戒する行動をとって下さい。

#### エ 車上ねらい・部品ねらい

可能な限り警備員がいる駐車場に駐車してください。やむを得ず路上に駐車する場合は、人目のない場所を避けるとともに、車両を離れる際に周囲に不審な人物がいらないか確認してください。また、警備員が配置された駐車場であっても油断は禁物です。貴重品は絶対に車内に放置せず、全てのドア・窓の確実に施錠するようにして下さい。

### (4) 日常生活上の注意点

近隣者や使用人、警備員の素性を把握することは重要なことです。特に、自宅周辺の状況を正確に把握することが防犯に繋がり、万が一の際には、助けを求めることもできます。使用人や警備員を使う場合にも彼らを過信することなく、適切に接することが重要です。

また、旅行や休暇などで家を留守にする際は、使用人や警備員に不在の日程を極力明かさないほか、貴重品はできる限り持ち出し、自宅に置く場合は分散させて保管する、警備の巡回を増やす、知人など十分信頼の置ける人に家を見に来てもらう

などの対策が重要になります。

さらには、自宅へ出入りする業者などには十分注意を払い、できる限りその行動をご自身又は使用人、警備員が監視を行い、たとえ顔見知りであっても油断はしないでください。

#### 4 交通事情と事故対策

##### (1) 交通事情

ブルンジは首都等の町中は平坦ですが、地方は坂道が多く、未舗装道は雨が降った後には更に悪路となるため極めて走りにくい状況です。車を購入する場合には、できるだけ馬力があり、四輪駆動で車高が高い車両を強くお勧めします。

また、十分な点検と整備ができていない車が多く、壊れたまま走る車や交通マナーの悪い車も散見され、運転者の技術やモラル、交通ルール意識は高いとは言えない現状です

##### <安全確保のポイント>

- ・ 防衛運転に徹してください。
- ・ 車間距離を十分に確保してください。

時として、執拗にパッシングし、クラクションを鳴らされる場合もあります。決して感情的になったり、競い合ったりせず、自身の安全確保を第一に行動してください。また、車線を見越した無理な追い越しや割り込みなども日常茶飯事です。運転手を雇う際には、車間距離を保持するよう明確に指示して下さい。

- ・ 未舗装道の路肩はもろくて崩れる危険性が高く、路肩からは十分に距離を保つ必要があります。また、夜間は町全体がとても暗いため路肩が見づらく、脱輪事故等に十分注意してください。

##### (2) 交通事故に遭った場合

十分に注意していても交通事故の加害者・被害者になることがあります。その場合には、落ち着いて以下のとおり行動してください。

- ・ 直ちに警察へ連絡し（１１８番）、交通事故発生の通報を行う。
- ・ 負傷者がいる場合は、負傷者の救護を行う。
- ・ 周囲を群衆に囲まれるなど、危険を感じた場合には速やかに現場を離れ、最寄りの警察署へ行って事故の報告を行い、警察官とともに現場へ戻る。
- ・ 現場で安易に示談に応じない。
- ・ 万一に備え、自動車保険（任意保険）には必ず加入する。

#### 5 テロ対策について

これまでに、ブルンジにおいてテロによる日本人の被害は確認されていませんが、

近年、シリア、チュニジア、バングラデシュにおいて日本人が殺害されるテロ事件が発生しています。また、テロは世界中で発生しており、特に、近年では単独犯によるテロや、一般市民が多く集まる公共交通機関等（ソフトターゲット）を標的としたテロが頻発していることから、こうしたテロの発生を予測したり未然に防ぐことがますます困難となっています。

このようにテロはどこでも起こり得ること及び日本人が標的となり得ることを十分に認識し、テロの被害に遭わないよう、海外安全ホームページや報道等により最新の治安情報の入手に努め、状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心掛けて下さい。

### Ⅲ 緊急事態対処

#### 1 平素の準備と心構え

政情不安、大規模災害等が発生した場合、在留外国人は国外待避を求められることがしばしばあります。他国での事案を決して他人事とすることなく、いつどこで何があってもいいように、有事の可能性に備えて、常日頃から準備を行うことがとても大切です。

##### （１）在留届の提出

在留届は、ご本人及びご家族の各種領事手続きの際に利用されるだけでなく、邦人が事件や事故に遭った場合や緊急事態の発生時等に、必要に応じて緊急連絡先（関係者）への連絡を行うために使われます。在留届が提出されていないと、大使館は在留邦人の皆様がルワンダに居住していることが分からず、大災害や事件・事故の際に安否確認や救出することができません。海外に3か月以上邦人が滞在する場合は、大使館・総領事館へ在留届を提出することが旅券法で義務づけられています。必ず手続きを行ってください。

また、住所や電話番号等に変更が生じた場合には「変更届」を、日本への帰国や他国への転居を行う場合には「帰国届」の提出をお願いいたします。

在留届は、インターネットオンライン登録「ORR-net」からでも提出が可能です（リンク先：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>）。

##### （２）たびレジの登録

在留届の提出義務のない3か月未満の短期滞在の方は、外務省海外旅行登録「たびレジ」に登録してください。登録者は、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、不測の事態が発生した時の緊急連絡などを受けることが可能です。たびレジはインターネットからオンライン登録して下さい（リンク先：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>、当館ホームページにもり

ンクあり）。

### （３）当地ベルギー大使館の緊急避難計画への登録

ブルンジには日本国大使館がないため、緊急時の邦人援護の即時対応は難しい状況です。よって、在ブルンジ・ベルギー大使館の緊急避難計画への登録を強く推奨します。同大使館において、緊急退避計画への登録を行うことにより、緊急事態が発生又は発生が想定される際に、ベルギー大使館から危険情報、避難計画の内容及び集合場所等の情報がメールにて配信されます。未登録の場合、緊急時に同館で保護してもらえない可能性がありますので、できるだけ早く登録をお願いします。

（転居等で登録が不要になった際には、必ず連絡をして登録解除をお願いします）

登録について、ご不明な点がある方は、在ルワンダ日本国大使館領事班メールアドレス（[rwanda-consul@kq.mofa.go.jp](mailto:rwanda-consul@kq.mofa.go.jp)）宛にご連絡をお願い致します。

### （４）準備しておく物（別記チェックリスト参照）

緊急事態や政情不安が発生しそうな時は、物の買い占めや略奪などが起こる可能性があります。あらかじめ準備できるような物は平時から備えておき、飛行機の機内持込みが可能な大きさ（10Kg程度）にひとまとめにしておくことをお勧めします。

- ・ パスポート及びイエローカード ・ 着替え、運動靴 ・ 常備薬
- ・ 現金（ブルンジフラン、米ドル等の外貨） ・ クレジットカード
- ・ 飲料水 ・ 食料 ・ 懐中電灯 ・ ラジオ ・ 予備電池
- ・ 携帯電話チャージ用スクラッチカード ・ モバイルバッテリー

## ２ 緊急時の行動

### （１）安否・所在確認

テロや大規模デモ等の緊急事態の発生が予想されるような状況や、現に発生した場合には、提出された在留届及び「たびレジ」に基づき、在留邦人宛てに関連情報及び避難情報をお知らせするとともに、皆様の安否・所在確認を行います。皆様におかれましても、職場の同僚間や家族間において連絡を取り合い、素早く安否確認をして頂きますようお願いいたします。

### （２）大使館への通報等

緊急事態発生時には在留邦人の皆様の安否確認及び治安・被害状況等を正確に把握し、迅速に対応することが重要であり、皆様からの連絡は貴重な情報資料となります。爆弾等の爆発、テロの発生、邦人の方が被害に遭われたという情報を見聞きした場合には、逐次、大使館に連絡をお願いします。

### **(3) 緊急退避等**

事態が切迫した場合には、当館の指定する場所への避難をお願いする場合があります。その際は、旅券や現金、貴重品のほか、非常用物資をご持参して頂けますようお願いいたします。一方、緊急時は自分や家族の生命、身体の安全を第一に考え、その他の携行荷物は必要最小限にしてください。

2025年は議会・地方選挙等を控えており、国内の情勢が急激に不安定になる可能性も排除されず、日頃からあらゆる可能性を想定しながら準備をしておくことが肝心です。

### 3 緊急事態に備えてのチェックリスト

#### 緊急事態に備えてのチェックリスト

##### 1 旅券（パスポート）

- ☐ 十分な残存有効期間（6ヶ月以上）があること。
- ☐ 査証ページ欄が残り概ね2ページ以上あること。
- ☐ 旅券の最終ページ「所持人記載欄」に必要事項を記入しておく。

※ 旅券に十分な残存有効期間、査証ページ欄がない場合、速やかに大使館にて旅券の切替え発給の手続きを済ませてください（現在は査証ページを増やす「増補」の申請はできません。）

##### 2 現金及び貴重品

- ☐ ブルンジフラン現金（家族全員が10日程度生活できる金額）  
→ 普段はカードやモバイル決済を行っている方も、いざという時のため現金を手元に置いておく。
- ☐ 外貨現金（米ドル、日本円等）※有事で当地通貨が使用不可に陥る可能性も考慮しておく）

##### 3 自動車

- ☐ 常時、整備しておく
  - ☐ 十分な量のガソリンを入れておく（当地の燃料事情を考慮しこまめな給油に心がける）
  - ☐ 懐中電灯、地図、ティッシュペーパー等の積載
- ※ 自動車を所有していない場合は、お近くに住む方で、非常時に同乗させてくれる方を予め探しておくことも必要です。

##### 4 その他、携行品（即座に持ち出せるようにカバン1つにまとめる。玄関近く等のすぐに取り出せる場所に準備しておく。）

- ☐ 携帯電話及び充電器、モバイルバッテリー（停電でも使える乾電池式、手回し式及びソーラー式も有効）
- ☐ 衣類・靴等（靴底が厚い物を準備）
- ☐ 洗面用具（タオル、歯磨きセット等）
- ☐ 非常用食料、飲料水（最低でも約1週間分以上）

#### 4 緊急連絡先

##### (1) 警察消防等

- ・ 警察一般 : 1 1 3
- ・ 交通事故 : 1 1 8
- ・ 火 災 : 1 1 3
- ・ 救 急 : 1 1 2

##### (2) 在ブルンジ・ベルギー大使館 (緊急) : +257-79-925-105

住 所 : 18, Boulevard de la Liberté, Bujumbura , Burundi

代表電話 : +257-22-226-176

緊 急 時 : +257-79-925-105

##### (3) 在ルワンダ日本国大使館 (ブルンジ兼轄)

住 所 : 35, KG7 Avenue, Kacyiru, Kigali, Rwanda

ブルースターハウス (青いガラス張りのビル)

代表電話 : +250-252-500-884

領 事 班 : +250-788-385-404 (執務時間外、土日祝日の緊急連絡先)

ホームページ : [http://www.rw.emb-japan.go.jp/index\\_j.html](http://www.rw.emb-japan.go.jp/index_j.html)

メールアドレス : [rw.emb-japan@kq.mofa.go.jp](mailto:rw.emb-japan@kq.mofa.go.jp) (代表)

[rwanda-consul@kq.mofa.go.jp](mailto:rwanda-consul@kq.mofa.go.jp) (領事班直通)

#### IV おわりに

2020年の新政権発足以降、政情が安定してきたと言われるブルンジではありますが、今なお手榴弾を使用した事件がブジュンブラ市内中心部で発生しているほか、武装集団によるテロ事件でも多くの死傷者が出ております。外国人を対象としたものではないと言われていますが、決して他人事と思うことなく、これらの事件に巻き込まれることのないよう、十分すぎるほどの安全対策を講じることが必要不可欠です。

最後となりますが、今後ともブルンジにおける皆様の生活が安全で快適なものになることをご祈念申し上げます。